



# 2026年3月期決算補足説明

2026年 5月12日(火)

ウェーブロックホールディングス株式会社  
証券コード:7940  
(東証スタンダード市場)

- 2026年3月期業績報告
- 中期経営計画2026(2025年3月期～2027年3月期)  
これまでの取り組み進捗
- 2026年3月期 期末配当
- 2027年3月期業績および配当予想
  
- APPENDIX

# 2026年3月期業績報告

■ 売上高 25,137百万円(前年同期比 $\Delta$ 1.7%)

- 自動車向け販売は北米のEV補助金終了などの影響により減少
- コンビニ向け食品包材販売は物価高の影響を受け低調
- 農業向け遮熱・遮光製品販売および地中熱ビジネスは好調

■ 営業利益 445百万円(前年同期比+9.9%)

- 自動車向け販売および食品包材は売上高減少により苦戦
- 遮熱・遮光製品の販売増加が利益に貢献

■ 当期純利益 302百万円(前年同期比 $\Delta$ 42.0%)

- RP東プラの持分法利益を計上
- 公開買付関連費用を計上

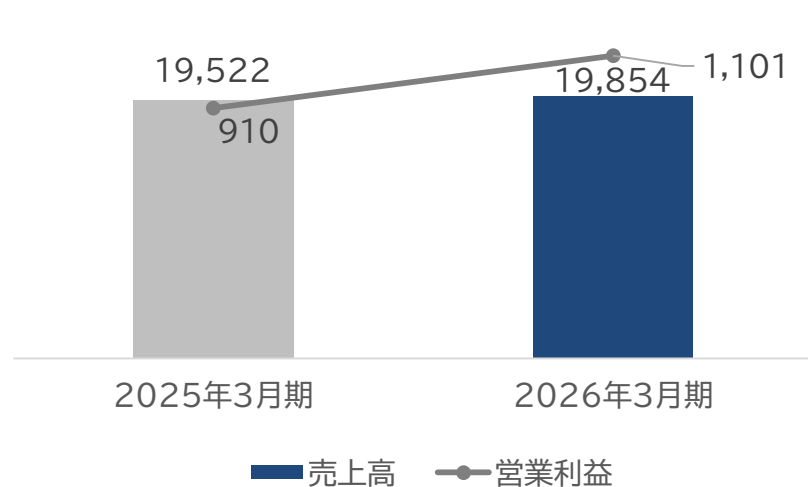
## ■ 売上高および営業利益は予想を下回った。一方、経常利益以下は予想を上回る

- マテリアルソリューション事業は、食品包材および防虫網販売が苦戦したものの、遮熱・遮光製品を中心とした農園芸品販売が計画を大きく上回った
- アドバンステクノロジー事業の自動車向け販売は、北米・中国市場向け販売の低調推移により予想未達
- 退職給付債務の再計算による影響は+292百万円
- 経常利益以下では、持分法利益の積み上げに加え、TOB不成立により公開買付関連費用が見込比で減少した結果、予想を上回る

(単位:百万円)

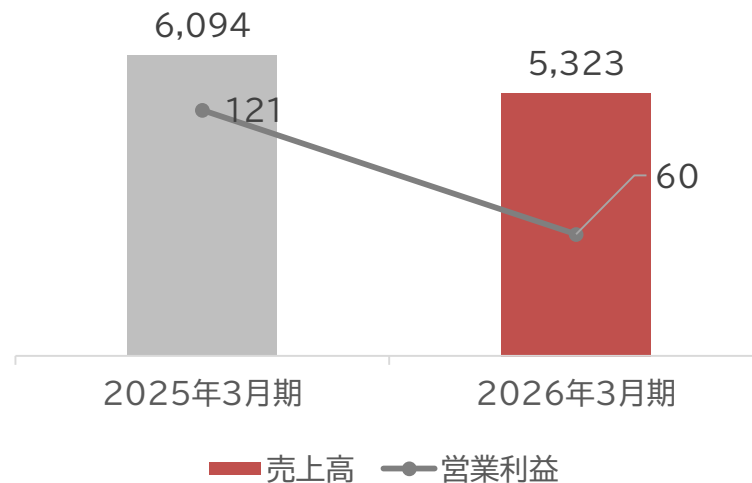
	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (実績)	増減率	通期予想	達成率
売上高	25,566	25,137	△1.7%	26,000	96.7%
マテリアル	19,522	19,854	+1.7%	20,000	99.3%
アドバンス	6,094	5,323	△12.7%	6,000	88.7%
営業利益	405	445	+9.9%	550	81.0%
マテリアル	910	1,001	+10.0%	1,100	91.0%
アドバンス	121	60	△50.2%	80	75.8%
その他	△626	△616	-	△630	-
経常利益	697	665	△4.6%	550	121.0%
当期純利益	520	302	△42.0%	200	151.1%

## マテリアルソリューション事業



- 遮熱・遮光製品を中心とした農園芸品販売が好調に推移したほか、グループ化した(有)ミネの売上高の取り込みおよび連携強化が寄与
- 一方、防虫網は引き続き低調推移。コンビニ向け弁当容器も物価高を背景に需要が低下
- 地中熱ビジネスは順調に推移し売上高目標を達成(売上高実績は2024.3期91百万円、2025.3期229百万円、2026.3期467百万円)

## アドバンステクノロジー事業



- 自動車向け販売は、米北市場では関税やEV補助金停止の影響、中国市場では採用車種の在庫調整の影響を受け苦戦。販売低調は利益面にも影響
- 一方、今期より本格的に営業を開始したインドは順調に立ち上がり、現地メーカー向けエンブレムへの採用が拡大。欧州市場でも車両外装パーツが量産化へ移行

# 中期経営計画2026(2025年3月期～2027年3月期) これまでの取り組み進捗

事業  
基本戦略

成熟分野における  
稼ぐ力の  
再構築

成長分野の  
拡大

グループシナジー  
最大化と  
更なる関係深化

グループ  
経営施策

従業員エンゲージメントの向上

## 成熟分野における稼ぐ力の再構築（マテリアルソリューション事業）

### 推進中の取り組み

### 主な進捗と対応

#### 地中熱と既存分野の連携強化

- 地中熱ビジネスの体制の強化、連携
- 既存製品・商流との連携強化による拡販



- ✓ 人員体制強化および工事施工を行う子会社との連携強化を推進
- ✓ 施工事例を起点とした営業活動や知名度向上への取り組みが奏功し、注力ターゲットである施設園芸および中規模建築向け案件を複数受注
- ✓ 施工をきっかけに自社農業資材が採用されるなど、既存分野との連携も進む

#### 生産性の革新、低成長・低収益分野の構造改革

- 拡大が期待できる分野への経営資源の重点投入、生産増強、効率向上
- 低成長・低収益分野の構造改革、統合・整理
- 継続的、計画的な工場メンテナンス等による安心安全の生産環境の向上



- ✓ 低成長・低収益製品からの撤退や価格見直しを推進
- ✓ 子会社や海外拠点の活用などによる内外生産バランスの最適化、仕入の見直し・コストダウンを推進
- ✓ 防災対策強化に向けた工場改修工事を順次対応

## 成長分野の拡大（アドバンステクノロジー事業）

### 推進中の取り組み

### 主な進捗と対応

金属調加飾  
分野の量的、  
質的拡大と  
利益獲得

- 自動車マーケットの変革の波に対し、各地域に合わせた営業戦略を推進
- 確実な量産立上げと更なる採用モデルの拡大による売上の安定化
- 金属調、光透過、電波透過に加え、塗装代替、塗装保護等の新製品開発



- ✓ 顧客基盤拡大に向け、EV専門メーカー向けに加え、**内燃機関向け案件や幅広い完成車メーカーへのアプローチを強化**
- ✓ 韓国、米国、ドイツに続き設立した**インド拠点**は、2025年4月より営業を開始し、**順調に立ち上がり**

製造基盤の  
強化と  
安定供給体制の  
構築

- 世界レベルの高い品質基準に対応したクリーン度向上、自動化の推進
- 安定供給体制の構築とTier-1を担える品質マネジメントシステムの強化
- 量産化モデルの増加に伴う操業度向上、生産性の向上



- ✓ 国内工場に続き、オハイオ工場でも**ISO9001を取得**。今後は自動車の品質マネジメントシステムに関する国際規格であるIATF16949の取得を目指す
- ✓ 古河工場のクリーン化をはじめ、**品質向上および製造基盤の強化に向けた設備投資**を実施
- ✓ 米国関税の影響を踏まえ、**グローバル生産体制の最適化に取り組む**

## 推進中の取り組み

## 主な進捗と対応

グループシナジー最大化と更なる関係深化

- 既関連企業とのシナジー創出と関係深化
- 周辺領域のM&Aと新規事業模索



- ✓ RP東プラ(株)への地中熱システム導入、新規受注活動の為の共同試作実施など、引続き提携関係の強化を図る
- ✓ 樹脂製品加工を得意とする(有)ミネを子会社化。連携強化により、同社の技術力を活用した新規商品の採用が拡大

従業員エンゲージメントの向上

- 人財育成教育の強化・推進
- 健康経営の推進
- 業績に応じた報酬還元により、約3~5%の賃上げを計画



- ✓ **学ぶ機会の提供**や資格取得費用支援制度の拡張
- ✓ **健康経営優良法人認定取得(2年連続)**
- ✓ **賃上げの実施**
- ✓ **多様で柔軟な働き方に対応する制度改定**

# 2026年3月期 期末配当

当社は、2025年12月17日付「WHD株式会社による当社株式に対する公開買付けの結果に関するお知らせ」および、2026年3月10日付「当社株式の非公開化に係る検討プロセスの進捗に関するお知らせ」に記載のとおり、当社株式の非公開化の可能性も含め、当社の企業価値を最大化するための選択肢を引き続き広く模索しております。

このため、2025年10月31日付「2026年3月期中間配当及び期末配当予想の修正(無配)に関するお知らせ」において公表いたしました2026年3月期の期末配当予想について、変更はありません。

# 2027年3月期業績および配当予想

中東情勢の緊迫化を背景に、原油価格動向やサプライチェーン混乱による原材料調達リスクの高まりに加え、物流費・エネルギーコストの上昇など、先行き不透明な事業環境が続いております。また、需要動向や製品価格への転嫁時期・転嫁幅についても見通しづらい状況にあります。

このような状況を踏まえ、現時点において通期業績予想を合理的に算定することが困難であるため、業績予想は未定といたします。今後、合理的な算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

また、配当予想につきましても、業績予想の算定が困難であることから、未定といたします。

# APPENDIX

(単位:百万円)

	2026年 3月末	前期末比		2026年 3月末	前期末比
資産合計	30,035	+848	負債・純資産合計	30,035	+848
流動資産	18,076	+307	負債	13,302	+818
現預金	4,115	+893	営業負債	2,578	△ 301
営業債権	5,175	△ 480	有利子負債	6,427	+1,029
棚卸資産	7,851	△ 269	その他	4,296	+90
その他	932	+162			
固定資産	11,959	+541	純資産	16,733	+30
固定資産	9,744	+434	株主資本	16,258	+177
その他	2,215	+107	その他の 包括利益他	475	△ 146

設備投資による有形  
固定資産増加など

退職給付に係る調  
整累計額の減少、  
当期純利益の計上  
など

投資有価証券の増  
加など

- 自己資本比率:55.4%
- ROIC:1.4%
- ROA:1.0%
- ROE:1.8%

現金及び現金同等物 4,112百万円（2025年3月期末から890百万円増加）

（単位：百万円）

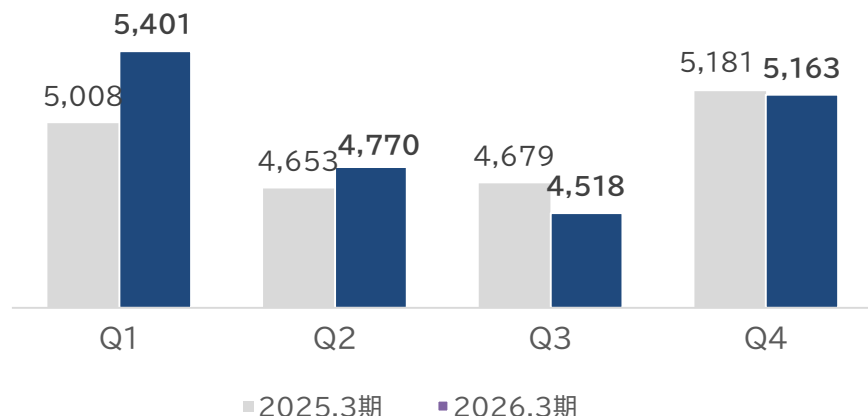
2026年3月期	
税金等調整前純利益	506
減価償却費	894
持分法による投資損益(△は益)	△ 261
運転資本増減	518
その他	△ 434
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<b>1,223</b>
固定資産の収支	△ 1,250
投資有価証券の売却による収入	154
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△ 80
その他	△ 14
<b>投資キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,191</b>
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	<b>32</b>
借入金の収支	1021
配当金の支払	△ 127
その他	△ 22
<b>財務キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 872</b>

RP東プラの持分法利益など

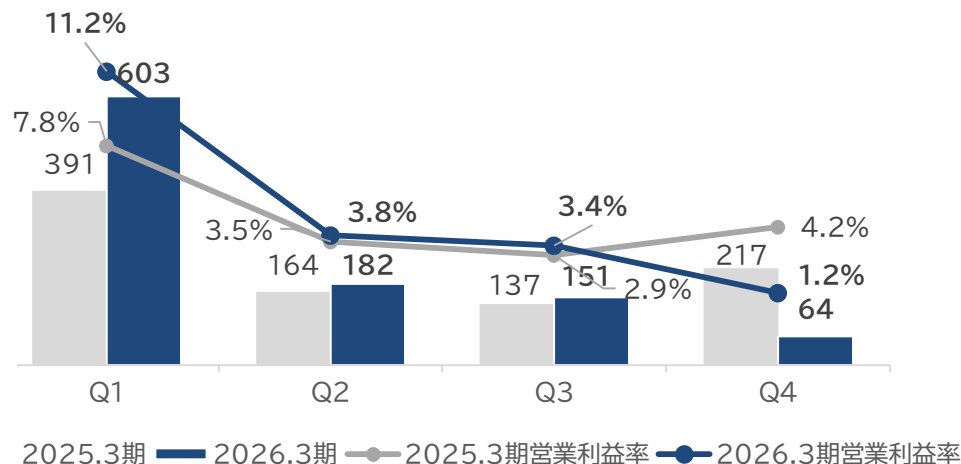
設備投資による固定資産の取得など

単位:百万円

売上高



営業利益・営業利益率



## リビングソリューション:

- ホームセンターで販売する家庭菜園向け園芸用品は堅調に推移する一方、防虫網は猛暑の影響などにより需要が減少。また、住宅着工件数の低下を受け、サッシメーカー向け防虫網も低調に推移。第4四半期のホームセンター向け需要期初回導入も低調推移。今期より連結した(有)ミネとの連携は順調に進展

## ビルディングソリューション:

- 原材料価格上昇分の売価転嫁が浸透したほか、仮設資材用メッシュシートや間仕切用シート等の販売が好調に推移。一方、防音シートの低調をはじめとする販売数量の減少や人員不足などに伴い製造効率が悪化

## パッケージングソリューション:

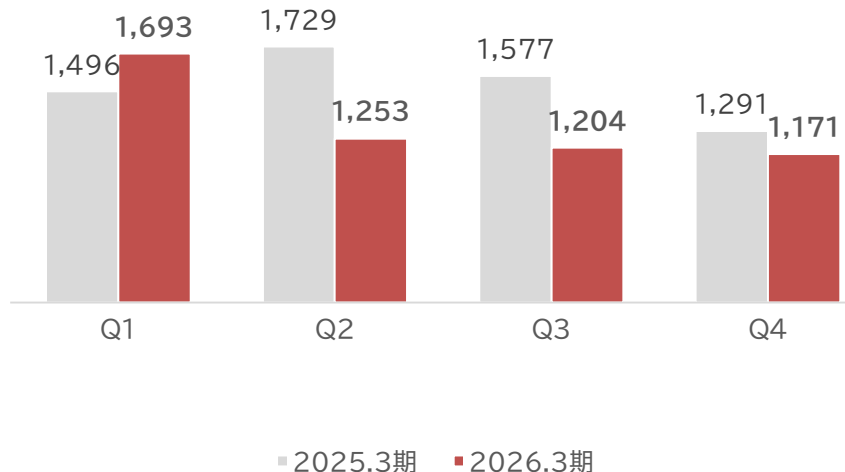
- コンビニ向け弁当容器は物価高を背景とした需要低下が継続。販売数量の減少は生産効率にも影響し、売上高・利益ともに大幅減

## アグリソリューション:

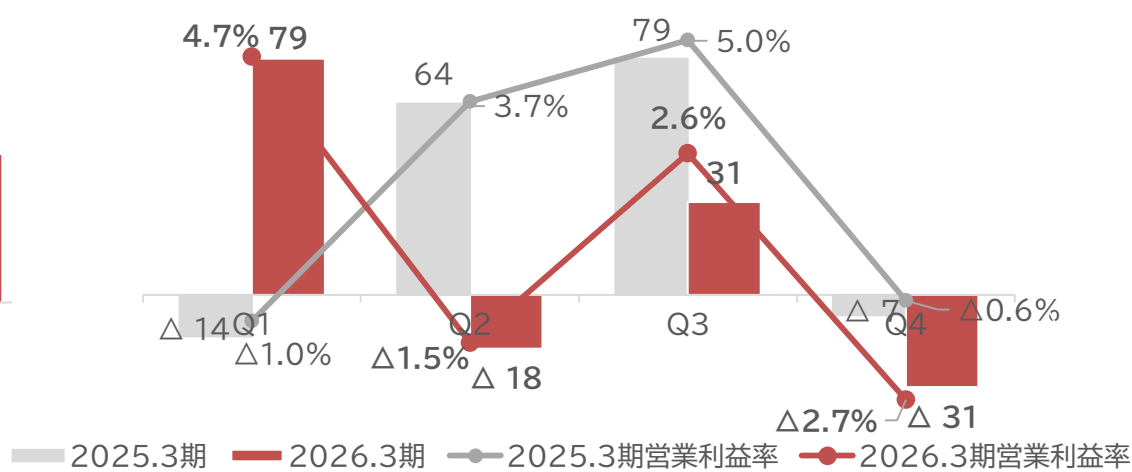
- 短期梅雨や全国的な猛暑を背景に、「清冷」を中心とした遮熱網など農業向け遮熱・遮光用途品の販売が前年を上回るペースで拡大。また、海外での抹茶人気を背景に、茶葉生産者向け遮光網需要も高水準で推移。売上高、利益ともに大きく貢献

単位:百万円

売上高



営業利益・営業利益率



## デコレーション&ディスプレイ:

- 北米では、関税やEV補助金停止を見越した駆け込み需要の反動により、第2四半期以降の出荷が大幅に減少。中国市場も、現地EVメーカーの在庫調整の影響を受け低調に推移。今期より本格稼働したインド拠点における現地自動車メーカー向けエンブレム販売の好調や、欧州市場における車両外装パーツの量産開始などがあったものの、北米・中国市場の減少を補うには至らず
- 利益面では、製造工程改善による収率の良化や、第3四半期における海外子会社の在庫消化進展による未実現利益の減少があったものの、販売数量の減少に伴い生産効率が悪化し苦戦
- 米国関税の影響をふまえ、グローバル生産体制の最適化を進展中
- 各国の政策転換などにより短期的な影響を受けるものの、中長期的な成長トレンドは不変。販路拡大と品質管理体制の強化を通じて次の成長フェーズへの基盤づくりを加速

## その他:

- テレビモニター用導光板・拡散板の販売はテレビ需要の低下に伴い大幅減少。仕入販売のため利益への影響は些少

本資料における見通し等は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。  
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。